

## みおつくし 福祉・介護の仕事 きらめき大賞選考会

【開催】 令和6年8月9日

【委員】 座長 鈴木 大介 (大阪成蹊短期大学 准教授)  
 座長代理 堀江 幸代 (社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会 事務局次長兼地域福祉課長)  
 委員 浅野 幸子 (公益社団法人 大阪介護福祉士会 会長)  
 委員 瀬戸 康男 (大阪市障害児・者施設連絡協議会 役員)  
 委員 田中 綾 (一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟 理事)  
 委員 中本 勝也 (公益社団法人 大阪社会福祉士会 元副会長)

【講評】

賞	タイトル/受賞者	講評
最優秀賞	【約束】～あなたが忘れてしまっても～ 野田 美佳 社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホームこうのと	悩み・葛藤がありつつも周囲のアドバイスを受け前に進んでいこうとする職員の様子が伝わってくる。「約束」といっても、契約の様な約束ではなく、一緒に考えようとする様子が良く描かれている。仕事へのやりがい・魅力が伝わってきて、これから福祉・介護職に就こうとされる方に読んでもらいたい作品。
優秀賞	出来ることは自分でやる 藤田 佑太 社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホームこうのと	既存の介助の仕方にとらわれず、以前の状態に戻るの難しい中でも重ねてチャレンジをしている様子が、福祉・介護職のやりがい・魅力としてよく伝わってくる。他職種と連携し、アセスメントしている点も評価として高い。何気なく行っていることが重要なことだと、チームを通じて気付いていく様子がよく描かれている。
優秀賞	「施設に帰りたい」 ～末期がん利用者の希望～ 宮川 千里 社会福祉法人 大阪自彊館 障害者支援施設 いまみや	具体的なケアのアプローチが記載されており、成果も分かりやすい。どのようにすれば利用者の希望を叶えることができるのか、その人の思いを叶えたいという障がい者支援への関わり方が良く伝わる作品である。
特別賞	～その時、その時間を笑顔 で過ごせるように～ 末浪 彩乃 社会福祉法人 大阪自彊館 特別養護老人ホーム ジュネス	アルバイト時代と正職員となってから経験したエピソードが描かれており、アルバイトの頃の経験から福祉・介護の現場へと就職した心情が良くわかる作品である。職業を選択しようとされている若い方にとっても共感の得られる作品である。
特別賞	突然×偶然=日常 松本 良子 社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホームこうのと	出来ない理由を考えるのではなく、出来ることを考えるということは基本でありながら難しいところである。本作品の中で「しょうがないもの」というフレーズがあるが、沢山の困難を乗り越えられた上での「しょうがない」という言葉は、決してあきらめ等では無いという印象を受けた。
特別賞	無資格未経験の新卒が介護職に挑 戦して感じたこと (非公開) 社会福祉法人 和悦会 浜特別養護老人ホーム	無資格未経験からの挑戦というイメージができ、福祉・介護の仕事を選択するまでの様子がよく描かれているため、福祉・介護の魅力を感じてもらえる作品といえる。また、部門制介護について触れられており、限られた時間での働き方、働きやすい労働環境についての好事例の紹介でもある。